

公立大学法人和歌山県立医科大学

平成22事業年度の業務実績に関する評価結果

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学の平成22事業年度に関する業務実績の評価について

和歌山県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第28条の規定により、公立大学法人和歌山県立医科大学（以下「法人」という。）の平成22年度業務実績に関する年度評価を実施しました。

年度評価は、中期計画に基づき法人が作成した年度計画について、評価委員会が当該年度の実施状況の調査及び分析を行い業務実績全体について総合的に評定を行うものです。

今回の年度評価は、平成18年4月に法人設立後、5回目の評価で、法人の自主的・自律的な運営及び大学の教育研究の特性に配慮しつつ、法人から提出された業務実績報告書及び法人に対するヒアリング等により、年度計画の実績及び法人の自己評価の妥当性を総合的に評価しました。

評価委員会としては、今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用され、効率化、活性化等が図られることにより、教育研究が一層充実するとともに、法人の業務運営状況について、県民のより一層の理解が深まることを期待します。

なお、今回の評価委員会による年度評価を踏まえ、翌年度以降の年度評価について、改善・充実を図ることが重要であると考えています。

平成23年8月

和歌山県公立大学法人評価委員会

目 次

第1 全体評価

1 総 評	1
2 特色ある取組等	1

第2 項目別評価

1 教育研究等の質の向上	
(1) 教 育	2
(2) 研 究	3
(3) 附属病院	4
(4) 地域貢献	5
(5) 産官学の連携	5
(6) 国際交流	6
2 業務運営の改善及び効率化	
(1) 運営体制の改善	6
(2) 教育研究組織の見直し	6
(3) 人事の適正化	7
(4) 事務等の効率化合理化	7
3 財務内容の改善	
(1) 外部研究資金その他の自己収入の増加	7
(2) 経費の抑制	8
(3) 資産の運用管理の改善	8
4 自己点検・評価及び情報提供	
(1) 評価の充実	8
(2) 情報公開等の推進	8
5 その他業務運営	
(1) 施設及び設備の整備・活用等	9
(2) 安全管理	9
(3) 基本的人権の尊重	9

第1 全体評価

1 総 評

- 「公立大学法人和歌山県立医科大学は、医学及び保健看護学に関する学術の中心として、基礎的、総合的な知識と高度で専門的な学術を教授研究し、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材の育成を図り、地域医療の充実などの県民の期待に応えることによって地域の発展に貢献し、人類の健康福祉の向上に寄与する。」という基本的な目標のもと、この1年間、公立大学法人として求められている「地域に開かれた大学」及び「地域社会への貢献」という使命を果たすべく、より良い大学教育と地域医療を実現するために、教職員が一丸となり組織の充実・拡充と事業の拡大に取り組んだ。

平成23年度は6年計画の最終年度であり、中間総括評価・年度評価を踏まえ、「10年後に日本の医療系大学のトップテン」を目指し、さらなる発展が期待される。

- 平成22年度計画301項目の実施状況を確認したところ、24項目について「年度計画を上回っている。」と認められ、273項目が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、4項目については、努力は認められるものの、十分年度計画を実施していないという結果である。これらを総合的に勘案すると、中期目標・中期計画の達成に向け、全体的には概ね順調に進んでいると認められる。なお、医師国家試験合格率の向上、紀北分院の経営改善という課題について留意する必要がある。

2 特色ある取組等

- 「高度医療人育成センター」の本格的供用が開始され、臨床技能研修センターが移設されるとともに、OSCE研修室、パソコンルーム等が整備され、学生定員増等に対応した教育環境が整備された。
- 地域の福祉施設等における実習機会の継続により、地域医療マインド育成に努めるとともに、医学部と保健看護学部が共同で、チーム医療マインド育成のために、「医療入門 ケアマインド教育」を通年で実施した。
- 医師国家試験の合格率は、2年連続して全国平均を下回った。合格率向上に向けて、卒業判定の再評価を含めた具体案の提示など、学生の実力が向上するような教育方法の一層の工夫が求められる。
- 若手研究者の応募意欲の向上を図るため、若手研究支援助成要綱に基づき、研究助成の選考及び採択を行うとともに、「次世代リーダー賞」及び「若手研究奨励賞」を創設した。
応募件数：8件　うち採択件数：6件
次世代リーダー賞：3名、若手研究奨励賞：8名
- 卒後臨床研修センターを中心として、14の研修協力病院へ延べ131名の研修医を派遣し、研修協力病院との連携を深めるとともに、研修協力病院の特色ある診療内容や診療体制を学んだ。また、平成22年度のマッチング率は、全国79病院のうち9位という好成績を収めた。

- がんの診療体制を充実させるため、5大がんの地域連携パスを作成し、運用を開始した。また、がん診療活動のレベルアップのために、がん診療連絡協議会の講演会を4回、緩和ケア研修を7回開催した。
- 診断書作成支援ソフトの導入と5名の診断書クラークなど支援体制を強化し、医師の負担軽減と受付から交付までの期間が、約1週間短縮されたが、患者サービスという観点からは更なる短縮が望まれる。
- 附属病院及び分院が、地域医療に果たす役割は極めて大きい、その機能を十分に発揮するための今後の展開が期待される。また、本県の地域医療の包括的な支援についても、現時点では計画されておらず、今後の取組が注目される。
- 理事長直轄の監査室を設置し、内部監査体制を整えた。
- 法人財務については、積極的に収入の確保と経費の削減に努め、当期総利益約5億円を計上した。

第2 項目別評価

評 定 の 区 分	<p>S・・・特筆すべき進捗状況にある。</p> <p>A・・・順調に進んでいる。</p> <p>B・・・概ね順調に進んでいる。</p> <p>C・・・やや遅れている。</p> <p>D・・・重大な改善事項がある。</p>
-----------------------	---

1 教育研究等の質の向上

(1) 教育

【評定】A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載131事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

〈医学部〉

- 「高度医療人育成センター」の本格的供用が開始され、臨床技能研修センターが移設されるとともに、OSCE研修室、パソコンルーム等が整備され、学生定員増等に対応した教育環境が整備された。
- 学生による授業評価を教員本人にフィードバックし、改善計画や目標を提出させており、授業の改善及びそれに伴う学生の学力向上が期待できる。
- 新カリキュラムに基づき臨床実習中に地域の病院で研修させるための病院選定を行い、地域病院等での長期実習や早期体験学習を実施した。
- チーム医療やインフォームドコンセントに不可欠なコミュニケーション能力を育成するため、地域の老人福祉施設・保育所・障害者福祉施設における実習機会の継続により、地域医

療マインド育成に努めるとともに、医学部と保健看護学部が共同で、チーム医療マインド育成のために、「医療入門 ケアマインド教育」を通年で実施した。

- 医師国家試験の合格率が、2年連続で全国平均を下回った。今後、合格率向上に向けて、卒業判定の再評価を含めた具体案の提示など、予備校化は避けつつ、学生の実力が向上するような教育方法の一層の工夫が求められる。
- 質の高い臨床医の育成を行うため、アドバンスドOSCEを本格的に実施し、卒後3年目の後期研修医のうち産科、小児科を除く全員が、救命救急センターで研修を受けた。
〈保健看護学部・助産学専攻科〉
- 昨年に引き続き、保健師、助産師、看護師の国家試験の合格率が100%であったことは、教育水準の高さを示すものである。
〈大学院医学研究科〉
- 研究レベルを向上し地域医療に貢献できるような人材を育成するため、分野横断的な知識の習得ができるようなカリキュラムや様々な分野から講師を招いた特別講義を実施するとともに、積極的に研究業績の発表を推進し、優れた研究について顕彰した。また、社会人学生の受け入れなど学生募集に努めた結果、入学者が増加した。今後、更なる研究活動の発展のためには、MD－PhDコースなど多様な履修形態の早期設置が望まれる。
〈助産学専攻科〉
- 助産学専攻科では、開業助産師の下で、宿泊実習を行い、地域医療への関心を高めるとともに、現場の助産師との協力・連携のもと、「助産診断演習」、「助産技術演習」の授業を実施した。

(2) 研究

【評定】A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載26事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 「スポーツ・温泉医学研究所」を「健康増進・癒しの科学センター」の1講座と位置づけ、地域活性化につながる研究を行うとともに、「みらい医療推進学講座」では、地元企業と連携した共同研究を行った。
- 若手研究者の応募意欲の向上を図るため、若手研究支援助成要綱に基づき、科学研究費補助金審査において落選した若手研究者を対象に公募し、研究助成の選考及び採択を行うとともに、「次世代リーダー賞」及び「若手研究奨励賞」を創設した。
応募件数：8件　うち採択件数：6件
次世代リーダー賞：3名、若手研究奨励賞：8名
- がんの診療体制を充実させるため、5大がんの地域連携パスを作成し、運用を開始した。また、がん診療活動のレベルアップのために、がん診療連絡協議会の講演会を4回、緩和ケア研修を7回開催した。

- 横断的プロジェクト研究を推進するため、特定研究助成プロジェクト発表会を開催し、講座や研究室、分野を超えた共同研究に対し助成を行った。
- 教員採用において、公募制により教授3名、講師2名を採用した。
- 「開かれた大学」を目指し、産官学連携を基本とした共同研究、受託研究などの研究活動の展開や公開講座、セミナー、出前授業（27回）などを積極的に実施した。

(3) 附属病院

【評定】B（概ね順調に進んでいる。）

年度計画の記載64事項中62事項が「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、2事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ドクターヘリの運行や救命救急センターの強化により県内の救急医療の地域間格差の是正に寄与した。

出動件数：県内 384件、三重県 10件、奈良県 16件

- 卒後臨床研修センターを中心として、14の研修協力病院へ延べ131名の研修医を派遣し、研修協力病院との連携を深めるとともに、研修協力病院の特色ある診療内容や診療体制を学んだ。また、平成22年度のマッチング率は、全国79病院のうち9位という好成績を収めた。
- 診断書作成支援ソフトの導入と5名の診断書クラークなど支援体制を強化し、医師の負担を軽減するとともに、受付から交付までの期間が約1週間短縮した。
今後、患者サービスという観点からは、更なる短縮が望まれる。
- 7対1看護体制に向けて看護師を事前に確保し、看護師数を40名増員するとともに、部署における指導体制の標準化と教育担当者の育成を図った。
- がんの診療体制を充実させるため、5大がんの地域連携パスを作成し、運用を開始した。
また、がん診療活動のレベルアップのために、がん診療連絡協議会の講演会を4回、緩和ケア研修を7回開催した。
- がん専門看護師、認定看護師が相談室で相談業務を行った。また、糖尿病療養指導士は外来で相談業務を行った。

相談室利用者数：メンタルヘルス 104名（21年度 69名）

がん療養 275名（21年度 143名）

- 医療安全推進部では、59名のリスクマネージャーによる会議を定期的に行い、インシデント事例の注意喚起が促され、3b以上のアクシデントが昨年に比べ16件減少し、インシデント総数の0.7%となった。

インシデント総数：3,458件（21年度 3,602件）

3b以上のアクシデント：25件（21年度 41件）

- 医師派遣等による地域中核病院の充実を図るとともに、中核病院からさらに診療所、地域の病院へのサポート体制の充実が望まれる。また、若い医師が地域で活躍できるサポート体制の充実についても期待される。
- 紀北分院については、「大学附属病院の機能の保有、本院及び近隣医療機関との機能分担」等を基本方針として開院したが、新病院移転前後の入院調整の影響のため、在院日数、病床稼働率（50%台）ともに前年度並みとなった。今後、病床稼働率を上げるための施策が望まれる。
- 紀北分院において、栄養カルテを作成し栄養指導を行うとともに、電子カルテシステムの導入により夕食の選択メニューの回数が増加し、栄養管理計画書の作成件数が、前年度の約2倍となった。また、週1回のラウンドとカンファレンス、月1回の勉強会（NST）を行うことにより、日本静脈経腸栄養学会のNST稼働施設認定を受けた。

（4）地域貢献

【評定】A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載16事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 救急患者を広域搬送し早期治療を開始するため、ドクターヘリを活用し、迅速に医療機関へ搬送するなど、県内の救急医療の地域間格差の是正に寄与しており、厚生労働省の救命救急センターの評価においても、全国7位と高い評価を受けた。
出動件数：県内 384件、三重県 10件、奈良県 16件
- がんの診療体制を充実させるため、5大がんの地域連携パスを作成し、運用を開始した。またがん診療活動のレベルアップのために、がん診療連絡協議会の講演会を4回、緩和ケア研修を7回開催した。
- 腫瘍センターにおける化学療法や放射線治療など、地域住民のがん診療に貢献している。
- 附属病院及び分院が、地域医療に果たす役割は極めて大きい、その機能を十分に発揮するための今後の展開が期待される。また、本県の地域医療の包括的な支援についても、現時点では計画されておらず、今後の取組が注目される。
- 厚生労働省「がん専門医臨床研修モデル事業」について、若手医師を対象に化学療法、放射線、緩和ケア、手術、病理、内視鏡のモデルプログラムに基づく研修を実施した。

（5）産官学の連携

【評定】A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 産官学連携推進本部のホームページを通じた情報発信の充実に努めるとともに、「医療機器産業への参入」をテーマに「異業種交流会」を、「医工連携」をテーマに「わかやま医工

連携セミナー」を株式会社紀陽銀行と共催し、研究の活性化と外部資金の導入を推進した。
今後、企業とのマッチングの促進を期待したい。

- 産官学連携を強化し、共同研究、受託研究などを展開している。
- コンソーシアム和歌山の公開講座に2名の講師を派遣した。

(6) 国際交流

【評定】A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 国際交流を目的として、新たにカリフォルニア大学へ学生を派遣するとともに、香港中文大学とマヒドン大学からの学生を、前年度に比し15名多く受け入れた。更に、4回にわたる交流会を山東大学、コンケン大学を含め実施した。一方、派遣人数が前年度より減少しており、今後の推移に注目したい。
派遣：4校9名（21年度 4校14名）
受入：4校31名（21年度 3校16名）
- 日本語以外に英語など外国語によるホームページも作成し、留学生等に様々な情報を適切に提供した。
- 教職員の海外研修の機会が少ないため、交流を含めて検討する必要がある。

2 業務運営の改善及び効率化

(1) 運営体制の改善

【評定】A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 理事長直轄の監査室を設置し、内部監査体制を整えた。今後は、人力的な制約はあるが、最小人員で機能する監査システムを構築し、さらなる充実を期待したい。
- 効率的、効果的な大学運営を行うため、組織改正を行った。規程の制定・改廃等は教授会を経ずに、教育研究審議会で決定し機能的運営に努めた。

(2) 教育研究組織の見直し

【評定】A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 11の委員会を廃止したことにより、業務の効率化を進めた。

(3) 人事の適正化

【評定】A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載10事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 新たに10名に臨床教授等の称号を付与し、臨床実習の充実と地域医療や医療連携の推進を図った。
- 育児休業から職場復帰する際、全員に面接を行い教育体制を整えるためのアンケート調査を行うとともに、復職支援研修を実施し、看護師確保対策に努めた。
- 教授選考に関し公募を行うとともに、選考過程においてプレゼンテーション及びインタビューを公開し、より良い人材の確保に努め、その結果、教授3名、講師2名を採用した。
- 7対1看護体制の確立に向けた取組により、今後は看護業務の内容の充実と質の向上を期待する。
- 女性教員の割合を20%以上とすることを目標とし、その達成のために支援講座を開催し(12月)、各科の女性医療人支援の取組や女性医療人の活躍について講演を行った。

(4) 事務等の効率化・合理化

【評定】A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められたことによる。

【評価及び指摘事項】

- 産官学連携推進本部の組織改正を行い、知的財産管理を推進する方策を検討した。
- アウトソーシングについては、常に点検し見直す必要がある。

3 財務内容の改善

(1) 外部研究資金その他の自己収入の増加

【評定】C (やや遅れている。)

年度計画の記載4事項中3事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 法人運営経費では病院収入が大きなウェイトを占めており、本院での「病床管理センター」による在院日数短縮は評価されるが、患者数の増加を含めた更なる運営努力が望まれる。
- 外部研究資金については、「医療機器産業への参入」、「医工連携」をテーマに異業種交流会を株式会社紀陽銀行と共催し、他大学の教員間の連携のきっかけ作りを行った。
- 学生納付金や各種手数料について適切な額の再検討を行った。
- 附属病院では入院料(室料差額)を改正したことにより、受益者負担額が適正化された。

(2) 経費の抑制

【評定】 C (やや遅れている。)

年度計画の記載4事項中3事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 医薬材料及び医薬品の価格交渉について、価格交渉支援をコンサルタントに委託し、医療用材料は入札時にベンチマークを用いた予定価格を設定し、医薬品は、総価の値引率で交渉した。
- 節水、エレベーター使用自粛、不必要な照明の消灯等管理費節減への意識啓発を行った。
- 高度医療人育成センターの本格稼働や猛暑の影響等により、総合エネルギー消費量は、対前年比102.6%となった。中長期的には、省エネ機器の導入などにより、更なる削減が望まれる。

(3) 資産の運用管理の改善

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められたことによる。

【評価及び指摘事項】

- 定期預金による適切な運用を行った。

4 自己点検・評価及び情報提供

(1) 評価の充実

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 新たに「公立大学法人和歌山県立医科大学特別優良教員理事長表彰実施要領」を制定し、教員評価の結果に基づき、医学部教養1名、基礎1名、臨床3名、保健看護学部1名に理事長表彰を実施した。
- 大学基準協会への改善報告に向け、「助言」を受けた部分について実施に向けた取組を進めた。

(2) 情報公開等の推進

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 先覚的、先進的な活動について、新たに定例の記者会見を開始し、積極的に情報提供した。
- 診療科や病棟等の各部門からの各種情報を発信し、患者サービスの向上に寄与した。

5 その他業務運営

(1) 施設及び設備の整備・活用等

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 紀北分院では、脊椎ケアセンター・総合診療・緩和ケアを3本柱とした診療を行うことができる施設を整備し開院した。
- 今後の大規模事業計画を調査・集約し、中期的財務推計を作成した。

(2) 安全管理

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 災害等の不測の事態の発生時には、附属病院が拠点として機能を果たせるよう津波対策も含め、危機管理に努める必要がある。
- 感染性廃棄物について、保管庫を整備するとともに、廃棄方法の周知徹底を図った。
- 教職員の健康診断の日数を増加させた結果、受診率96.2%となった。また、学生に対して全員に定期健康診断及び各種ワクチン接種を行った。
- 紀北分院において、転倒防止手すりの設置や仮道路の段差解消等、新病院移転前後の安全対策補修を行った。

(3) 基本的人権の尊重

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 全職員向け研修を4回行い、受講率90.3%となった。

- 医事相談員、医療福祉相談員及び医事管理班で連携し、医療相談や職員の対応等への問い合わせに対応した。
- 医療相談室が設置され患者や家族からの相談に対応していることは評価できるが、前年度に比して相談件数や意見箱への投書が減少しており、今後の推移に注目したい。
 - 相談件数：45件（21年度 52件）
 - 意見箱への投書：15件（21年度 29件）
- 疫学研究及び臨床研究の厳正かつ効率的な審査を実施するため、倫理委員会を隔月開催から毎月開催に変更した。

<資料>

○和歌山県公立大学法人評価委員会 委員名簿（敬称略）

氏 名	役 職 等
茨 常 則	日本医療文化研究会 主宰
佐 藤 エキ子	聖路加国際病院 副院長・看護部長
島 岡 ま な	大阪大学大学院高等司法研究科 教授
◎ 月 山 和 男	月山病院 名誉院長
橋 本 佳 明	上尾中央総合病院 生活習慣病センター長
林 宏	元紀陽銀行 専務取締役
中 川 武 正	白浜町国民健康保険直営川添診療所長
廣 内 幸 雄	高野町立高野山病院院長

（注）◎印は委員長

○業務実績の評価に係る和歌山県公立大学法人評価委員会の開催状況

- ・ 第2回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成23年 7月 7日開催
- ・ 第3回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成23年 8月 4日開催
- ・ 第4回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成23年 8月23日開催

○大学収容定員等（平成22年4月1日現在）

	収容定員（人）	収容数（人）
医学部	460	465
保健看護学部	328	338
医学研究科	196	142
修士課程	28	26
博士課程	168	116
保健看護学研究科	24	32
助産学専攻科	10	10

○教職員数（平成22年6月1日現在）

総 数（人）	1,389
教員	346
事務職員	94
技術職員	6
現業職員	21
医療技術部門職員	172
看護部門職員	741
研究補助職員	9

（出典）平成22年度和歌山県立医科大学概要